

# にっせき ぬくもり通信

<http://www.matsuyama.jrc.or.jp/>

Vol.16

2009年1月1日



編集・発行／松山赤十字病院

〒790-8524 松山市文京町1番地

TEL089-924-1111 FAX089-922-6892

《基本理念》人道・博愛・奉仕の赤十字精神に基づき、医療を通じて、地域社会に貢献します。



## 年 頭 挨拶

松山赤十字病院 院長 瀧上 忠彦

明けましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと暗い話題の多い一年でした。年金問題に始まり、米国発のサブプライムローン問題に端を発した金融危機、経済危機、それに連鎖する非正規職員の解雇、内定取り消し、リストラによる雇用危機など、生活の根幹を揺るがす危機が高齢者のみならず現役世代にも波及してきました。これらへの対応の遅れが政治不信を引き起こし、現政権の基盤が揺らいでいます。この国の向かう方向が見えません。

医療界にとっても明るい話題は一つもありませんでした。連日のごとく、妊婦さん、救急患者さんの受け入れ拒否、たらい回しがマスコミで報道されていますが、この最大の原因は国の施策で推し進められてきた医療費亡国論に基づく医師削減政策です。愛媛県でも医師不足は深刻な問題となっており、多くの病院で診療科の閉鎖が続いています。昨年秋には東予地区の住友別子病院が地域周産期母子医療センターを返上しました。我が国が世界に誇っていた、誰もが、何処でも、何時でも、均質な医療が受けられる国民皆保険制度が名ばかりのものになるようとしています。医療費の個人負担増、保険料が払えない無保険者の増加、さらには高齢者医療制度の導入が患者さんの受診抑制に拍車をかけています。とどめを刺したのは小泉政

権が聖域なき構造改革として打ち出した「骨太の方針2006」です。社会保障費の伸びを毎年二千二百億円削減し5年間で一兆一千億円抑制する方針が、医療機関には壊滅的なダメージを与え、多くの医療機関が赤字経営に転落し、医師不足に加え経営悪化が医療機関の閉院、診療科の閉鎖を加速させているのです。ようやく国も医師削減政策の過ちを認め医学部の定員増を決めましたが、遅すぎます。医師として1人前になるには最低10年を要します。県も種々の対策を講じていますが即効的な効果は期待できません。この危機を乗り越えるには、地域の医療機関と住民が連携し自衛策を講じるしかありません。当院は平成9年11月に県下で初めて地域医療連携室を開設し、地域完結型医療に取り組んできました。機能の異なる医療施設がお互いに連携し、無駄を省き、地域住民の皆様に病状、利便性に応じた医療を提供する体制の構築です。その取り組みが評価され、当院は松山医療圏では唯一の「地域医療支援病院」に認定されています。

本年も地域医療支援病院の名を汚さぬように、地域医療機関と連携し、地域住民の皆様に安心・安全で質の高い医療を提供していく所存で御座いますので、昨年に増してのご支援よろしく願いいたします。本年があらゆる面で希望の見える明るい年になることを祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

## 療養支援ナースの全病棟配置が完了しました

当院療養支援ナースについては、昨年7月に3名、本年7月に5名を病棟配置し、医療連携の流れの中で、急性期医療段階から転院・在宅への転換に向けて、入院及び外来患者の療養生活の質の向上に努めて参りました。

これら当院の療養支援業務体制の強化が、院内外各方面から認知・評価される中で、療養支援を必要とする患者も増加しつつあります。

こうした現状に対応するために、更に一層の療養支援範囲の拡大を図ることとし、平成20年11月1日付をもって、5名の支援ナースを追加任命しました。

これにより、亜急性期病棟（13病棟）を除く全病棟への支援ナース配置が完了しました。

現在あるいは退院後の療養生活等に関し、ご心配やご質問等がありましたら、ご遠慮なく療養支援ナースにご相談下さい。



## ヤクルトスワローズの選手が小児病棟の慰問へ



11月4日(火)～20日(木)の間、松山市・坊ちゃんスタジアムで秋季キャンプを行っていたヤクルトスワローズの選手が、11月12日(水)当院小児病棟の慰問に来てくれました。

慰問に来てくれたのは、昨季終盤からスタメン捕手に抜てきされて51試合に出場し、パンチ力のある打撃に加え、6盗塁と俊足ぶりを見せた川本良平捕手と東京六大学屈指の即戦力左腕であり、打者に向かっていく強気のピッチングと2種類のスライダーを武器に1年目から2クタ勝利をねらう加藤幹典投手の2名がユニフォーム姿で小児病棟を訪れました。

選手達は、「がんばって、早く元気になってね」と声をかけながら持ってきたヤクルトのロゴの入った帽子のプレゼントを一人一人手渡したり、優しくかぶせてあげるなどして、子どもたちと交流していました。子どもたちは、選手達の突然の訪問にびっくりしながらも楽しいひと時を過ごしていました。

## CCUの運用を開始

CCUとは、Coronary Care Unit（冠動脈疾患管理室）の略で、主に急性心筋梗塞などの冠動脈疾患の重症患者を収容し、強力かつ集中的に治療・看護を行う部門です。現実には、冠動脈疾患に限らずcardiac care unit（心疾患管理室）として心不全、不整脈、心筋炎、急性大動脈解離、急性肺血栓塞栓症などもその対象疾患となります。今まで38病棟にて運用していましたが、今回新たに37病棟に移転・改修し、十分なスペースと充実したスタッフ、設備の拡充により、さらに高度の治療・看護が可能になりました。12月1日より運用を開始しています。

